

産大レクチャー ア・ラ・カルト 〈204〉

文亀元（1501）年
12月10日（太陽暦1500
2年1月18日）の巳刻
（午前10時）ころ、越後
国で大規模地震が発生し
た。それは連歌師宗祇の
弟子 柴屋軒宗長が記し
た『宗祇終稿記』の記事
に依（よ）りその詳細が
明らかとなる。そこには
「大雪ふりて日（ひ）も
りぬ。この国（越後国）
の人だにかる雪（約1
尺以上の積雪）にはあ

はず（こんな大雪は見た
こともない）と怪あへる
に。（中略）かくてしほ
すの十日巳刻ばかりに。
地震おほきに。中
略）人民おほくうせ。家
々ころびたふれにしか
ばと宗祇や弟子の宗長
・宗碩等に依る東海・関
東・越後国・関東に至る
旅の記事として記される
が、宗祇の一行は上野国
（群馬県）を経て同年の
9月1日ころには越後国

直江津付近に到着した。
宗祇は越後国で守護上
杉房能ら家中の人々との
文芸交流を行った。それ
以前に於（お）ける越後
国守護が常時在京した状

持った。
『理科年表』では震央東
経138・2度、北緯37
・2度（上越市直江津付
近）と評価され、上越市
付近で大きな揺れを感じ

幡社社所蔵「塔寺八幡宮
長帳裏書」記事では「十
二月十日、大地震あり」
の記載もあり会津地方で
も相当な揺れを感じした
としているので、震源は

大雪と大地震

小林 健彦

況とは異なり、全く上落
の所見がない房能は京都
を中心として継承された
伝統的文化に対し憧憬
（しようけい）の念を抱
き、宗祇一行とは和歌・
連歌・和漢の古典講釈を
通じた文芸交流の機会を

した。高田平野には「高
田平野西縁断層帯」と
「高田平野東縁断層帯」
とがあるが当該地震との
関連性は不明である。こ
の地震規模はM6・5、
7・0と推定され、福島
県会津坂下町の心清水八

だしく発生したが、多
数の死傷者も発生し家
屋倒壊が甚たしかった。
しかしこれは被害状況
が積雪の為（ため）に隠
れ、地震発生時点では未
（いま）だ判明していな
かった可能性もある。越
後国の人々でさえも経験
をしたことのないような
豪雪時の地震であったが
故（ゆえ）に、山間部で
の雪崩被害も想定され
る。当該地震は未曾有
な大雪後の大地震発生と
いう観点から種類の異な
る自然災害が相次いで発
生し被害を及ぼす「複合

災害」であった。
この震災以降、当地域
では大規模な地震発生
の記録はなく、現在、相
当程度のひずみエネル
ギーが地下に蓄積されて
いることが想定される。
さらに今後、気候変動要
因（特に日本海海面水
温の高さ）で断（つ）は
くの間は温帯系の大気
傾向にあるものと推測
される。次回への備えを
怠るべきではないであ
ろう。
（経済学部教授）
〓 毎月1回掲載 〓

人口減少時代の地域活動

産大附属研究所 柏崎学シンポで考える

「既存組織の機能アップ」と「市民共創による日常の豊かさをつくる」を考える。人口減少に対応する創造的な地域活動の視点」をテーマにした「柏崎学シンポ」が1日、同



人口減少時代の地域づくりを考え合った「柏崎学シンポジウム」11日、新潟産大

同研究所は、「地域の地（知）の中核的拠点」として2016年度に開設された。柏崎学では地域の産業、経済、社会、歴史・文化、観光・スポーツなどをさまざまな分野に関する調査・研究を行い、課題解決や振興を目指してきた。

今回のシンポジウムでは、人口減少・少子高齢化の中で、地域社会も変化に対応した新たな考えや、仕組みを考える機会とした。会場参加80人、オンラインで30人が視聴した。

活動報告で新潟産大安達ゼミ（村上南流さん、農野飛龍さん）は地域活性化学会研究大会で奨励賞を受けた。「西山における道の駅を活用し買い物難民・子育て世代への支援策の提言」を発表し、現行のオンラインプログラムの利用で地元住民の利便性を高められよう提案した。

川海岸の古民家を夫婦で改修し、2012年にオープン。「心のリセットの場、心地良い風景、楽しい会話、健やかな食」を旨として、訪れる人がリラックスできる環境づくりに取り組んでいることを報告した。

パネルディスカッションには、上越市理事務所代表・関原剛さん、Ia Luce Lombra代表取締役・西村遼平さん、新潟産大附属柏崎研究所主席研究員・春日俊雄さんが登壇。「創造的な地域活動の視点」をテーマに意見を交わした。

この中で、関原さんは「人口500～1500人の『ムラ』がちょうどいい共同体」として地域運営組織としてのRMOを提唱。

西村さんは「人口減少の中で関係人口が大切。どんな関わってもらうことか」と、春日さんは「人口減少で地域が大きく変換わりしている。今の環境に合わせた仕立て直しが必要」などと述べた。

会場で、市内石置根、生活支援コーディネーター・砂塚一美さん（73）は「中山間地を遊ばせたくない」という思いで活動している。今日は地域性の豊かな情報を得ることができた。これからの活動の参考にした」と話した。

代表・umicafe DONA代表・栢香織さんは宮

拉致問題 小学生視点で

柏崎など 関係3市 オンライン会議熱心に



北朝鮮から帰国した拉致被害者の地元小学校3校をオンラインでつなぎ、拉致問題について考える「子ども会議」が10日あった。市内からは北鯖石小（梅川豊校長、児童数103人）の6年生20人が参加。3校

の児童10人は拉致問題の早期解決を願い、学習の成果を話し合った。

子ども会議は拉致問題への関心を高め、風化を防ごうと、帰国した被害者がいる柏崎市、佐渡市、福井県小浜市の3市でつくる「拉致被害者関係市連絡会」と各市教育委員会が企画し、今年で2回目。この日は2002年に帰国した蓮池薫さん（67）、曾我ひとみさん（65）、地村保志さん（69）も各校に参加し、児童の発表を見

表し合った。……
拉致問題について柏崎など3市の小学校をオンラインでつないだ子ども会議。蓮池薫さんは「拉致問題を風化させないという強い意志が解決への道」と児童に呼び掛けた
11日、北鯖石小

守った。

北鯖石小では、人権教育の一環で10月から、蓮池さんから当時の話を聞くなどして学習を進めてきた。オンライン会議で6年生は拉致について「残酷で大切なものが奪われる」「当たり前

の生活が一瞬でなくなってしまう」などと訴えた。その上で、拉致問題の啓発

などに向け、チラシやポスター、動画の制作、日本政府に拉致問題解決への手紙を書くことを発案した。卒業までに完成する予定だ。

佐渡市真野小5年生28人は学習発表会での署名活動、小浜市の内外海小5、6年生24人は北朝鮮の歴史や国内情勢などを調べ、拉致問題解決を目指す、小学生目線で何ができるかを発表し合った。

終了後、北鯖石小の6年

・池田湊太君は「蓮池さんから話を聞いて、拉致問題は基本的な人権を壊してしまうことも怖い事件だと思った。二度と起きてほしくない」。同・小林成美さんは「拉致されると、友人や家

族とも会えなくなる。このことを全国に広げていきたい」と話した。
蓮池さんは「児童の活動は北朝鮮へ『日本全体が拉致問題を忘れていない』という強いメッセージとなる」と期待。また拉致問題や北朝鮮の歴史や国内情勢を学ぶことで、日本の未来を担う子どもたちが広い視野を育む意義を強調し、「こういった活動を全国へ広げ、社会全体で支えることが重要だ」と述べた。

水球男子W杯 新田「欧州勢に勝ちきる」

ブルボンKZ 2選手代表入り

来年1月7日からルーマニアで行われる水球男子ワールドカップ（W杯）に日本代表で出場するブルボンウォーターポロクラブ柏崎（ブルボンKZ）の新田一景選手（26）が16日、市内で取材に応じた。「五輪では欧州勢に勝ちきれなかつ

た。悔しさをぶつけたい」と抱負を語った。

W杯は来年1月7日に開幕。11カ国が出場し、日本は予選グループでアメリカ、開催国・ルーマニアと対戦する。上位6チームは「ワールドリーグ・スーパーファイナル」への出場権

を得る。

新田選手は今夏のハリ五輪で代表入りし、初めて五輪の舞台に立った。8強を目標に掲げた日本は、予選リーグで金メダルを獲得したセルビアと善戦するなど健闘したが、結果的に1勝4敗で決勝トーナメント進



水球W杯に日本代表で出場するブルボンKZの新田一景選手＝16日

出には届かなかった。新田選手は「五輪では世界の壁を痛感し、悔しい思いをした」と振り返る。

五輪後、これまでプレーしていたオランダからドイツのクラブに移り、欧州での武者修行を続けている。現在、所属クラブはリーグ3位に位置し、「2強をどう崩していくかが目標。持ち味のスピードを生かして、挑戦していきたい」と意欲を見せた。

ブルボンKZでは、稲場悠介選手（24）も代表入りしている。

「新潟大学」が 地域に学ぶ 地域を学ぶ

— 実践活動レポート —

高柳荻ノ島で 棚田保全活動

新潟産業大学は新潟県農地部が実施している棚田みらい応援団の活動に参加している。同団体は2009年に活動をスタートし、これまで新潟県内の中山間地域と、企業や学生、一般のボランティア希望者をマッチングさせ、管轄活動・地域活性化を支援する取り組みを行ってきた。

数多く存在し、全国最多の棚田が農林水産省認定「つなぐ棚田遺産」ふるさとの誇りを未来へ「」に選ばれている。棚田は米作りだけでなく、洪水など地域の災害防止効果や環境保全、景観の形成など多面的な機能を有する。

しかし、近年の中山間地域人口の高齢化や人口流出による過疎化で、多くの地区が担い手不足の危機に直面しているため、同団体の活動地区は年々増加している。

先日、同団体が市内高柳荻ノ島地区で活動を行った。秋晴れの穏やかな天気の中、雑草が伸び、用水路に汚れが溜まっていた作業現場を地域の方と参加者が草刈りや水路の江ざらいを中心に行った。作業が終わった後の現場は見違えるほどきれいになり、参加者の表情からは達成感が伝わってきた。

本学からは、農作業のボランティア経験がある留学生たちが参加。チリゲルさん（4年、中国）は「地域社会で困っている人を助けることで、私自身も成長することができる。今後もこのような活動に積極的に参加したい」。マンダさん（3年、同）は「高柳荻ノ島地区

で活動を行い、地域の方が村内のつながり、のどかな風景を大切にしていることがよくわかった」と振り返った。今後も本学の学生が地域の課題解決に取り組むながら、学びを得る機会をいたただければ幸いである。

（同大学地域連携センター）



◆北野屋杯争奪柏崎卓球
選手権大会

（14日、市総合体育館）

——柏崎勢の結果

【男子】高校一般③神林
輝（新潟産大）▽中学1年
⑤佐藤汰（西山）

【女子】高校一般③伊比
香純（Biomb）▽中学
2年②星野心咲（西山）⑤
外山真里菜（同）▽中学1
年⑤黒井菜央（柏崎ジュニ
ア）

柏崎抄

▲ソフィアセ
ンターの1階開
架スペースの一
角に、今年も
「追悼コーナー」
が設けられてい
る。2024年

に生涯を閉じた国内外の方々の業績をしのんだもので、今年で10年目の取り組みだった。さまざまな分野でよく知られる人たちがただだけに感慨深いものがある▲1月に亡くなった写真家・篠山紀信さんは83歳。なにかと話題の多かった。特に俳優・高沢りえさんの写真集「サンタフェ」は社会現象になる影響の大きかった。2月には、世界的な指揮者・小澤征爾さんが88歳で亡くなった。大好きだったアニメ「ちびまるこちゃん」に出演していた声優・TARAKOさんが63歳で他界した▲聴力に障がいを抱えながらも一流ピアニストとして世界各地で公演をしたラジコ・ヘミングさんは4月、92歳だった。心が折れそうなときに、彼女の「ラ・カンパネラ」を聞く勇氣をもらったことがたひたびあった。娘がまだ中学生時代の頃、「ミホリン」と呼び、親子でファンだった中山美穂さんの急性は大変ショックだった

▲市内

出身の国語学者・北原保雄さんは移転先の千葉県内の病院で亡くなった。2月、87歳だった。筑波大名教授・元学長を経て、2013年から5年間、産大の学長を務められた。就任直後、北原さんにお目にかかったとき、こんな話をされた。「学生たちの背筋が伸び、歩幅も広く、さつそうとしている。若さとはいいものだ」▲在任中、「地域おこし大学」「人づくり大学」を掲げ、地域貢献に専念した。16年に創設された「柏崎研究所」もその一つだ。柏崎学として、種をまき、着実に育っている感がある。今月初めに開かれたシンポジウムはその最たるものだろう。遺作の数々を通して、改めて業績を思い起こさせてくれる。展示は来年1月中旬まで。 (田)

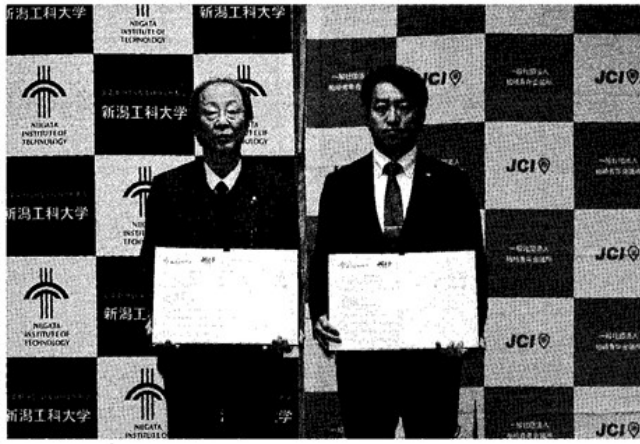
人財育成、地域活性化へ

柏崎JCI 工科大・産大と協定

柏崎青年会議所（柏崎JCI、梅比良真史学長）とそれぞれ、海津勇太理事長は11日に新潟工科大（田辺裕治学長）と、16日に新潟産大（ウハウを用いて人財の育

成、地域経済の活性化を図っていくことが狙いだ。協定締結のきっかけとなったのは、日本青年会議所

が7月5〜7日、柏崎を会場に開いた「社会課題解決型ハッカソン」。ハッカソンのとはプログラムの改良を



地域課題解決と人財育成を旨とし、柏崎青年会議所と連携協定を結んだ新潟工科大（上）と新潟産大

連携協力協定締結調印式



意味する「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語で、柏崎開催には両大の学生22人が参加し、社会課題解決アプリを開発した。また柏崎JCIは両大の新入生歓迎イベントを開催している。

新潟工科大の田辺学長は、「本学が直面している最大の課題の一つは少子化の進行に伴う入財の確保。大学単独で解決を図ることは困難であり、地域や企業、経済界と一体となった取り組みが必要不可欠だ。地域全体で連携しながら人財育成と地域振興の柏崎モデルを築き上げていくことを期待している」。

新潟産大の梅比良学長は「建学の精神として地域を担う人財育成を使命に、新しい発想で柔軟に対応できる人財の育成を目指している。青年会議所の皆様は学生と年齢が近く、社会人としての視点を持つているのが強みだと感じる。立場を超えて、危機感を共有し人財育成と課題解決に挑んでいきたい」とした。

両大学との協定締結後、

海津理事長は「日本全国で人口減少が進む中、この地域を盛り上げていくことが私たちの目標だ」とした上で、「新潟工科大には技術者育成、新潟産大には地域連携の強みがあり、企業側は学生の新しい視点や意見を取り入れ、課題解決に役立てることができる。一方、学生には学校では得られない社会経験や実践の場を提供でき、この柏崎刈羽地域がさらに元気になる未来を目指していく」と述べた。



2024年 柏崎刈羽10大ニュース

柏崎から世界へ羽ばたく

今夏のパリ五輪に日本代表で出場したセーリング男子の富澤慎選手、水球男子の稲場悠介、新田一景、棚村克行の3選手（右上から時計回りに）。富澤選手は2008年の北京五輪から5大会連続出場の快挙となった。水球勢も棚村選手が3大会連続、稲場選手は2大会連続で代表入り。新田選手にとっては初の五輪出場だった

パリ五輪躍動 柏崎勢4選手

セーリング、水球

今夏のパリ五輪に柏崎関係4選手が出場した。市内出身でセーリング男子10メートル級の富澤慎選手（40）は総合18位、上位10艇のメダルレースには進めなかった。自身5度目の五輪となり、「白熱した楽しいレースができた」と振り返った。

水球男子には、いずれもアルゴンチオーターボロクラの柏崎に所属する棚村克行選手（26）、新田一景選手（26）、稲場悠介選手（24）が日本代表として世界の雄豪と対戦。1勝4敗と負け越し、予選グループ敗退。それでも初戦で金メダルを獲得したセルビアに1点差の善戦を見せるなど健闘した。また男子のコーチで菅井翔太さん（38）が代表に帯同した。